

# 花き

3月の気温が平年より高く推移しており、生育の前進が予想されます。土壌病害やアブラムシ、アザミウマなどの害虫が媒介するウイルス病の発生に注意が必要です。ほ場を観察し、防除に取り組んでください。

## 【トルコギキョウ】

### 1 促成・無加温作型（5～7月切花）のほ場管理

日差しが強くなり、1日の日格差も大変大きいので、こまめな施設の温度管理が大切です。晴れた日の日中はハウス内が35℃を越える日が多くなります。日中は25℃を目標に二重カーテンを開放し、施設のサイド換気やトンネル被覆の開閉を行い、温度を上げすぎないようにします。ただし冷たく乾いた外気が直接トルコギキョウに当たらないよう、ハウスの腰巻を高くするなど工夫してください。また、側面や天窗は天候により、開放度を調整しましょう。風が強い日もありますので、天候の変化には十分気を配るようにしてください。



温度・光・水の環境の良いハウスで生育がそろう。(循環扇、換気と風よけ、敷きワラ等)

草丈15cm、5節くらいから花芽分化のステージに入るので、生長点は柔らかく敏感となり、短時間の高温でも障害が起きます。葉先の焼けと違い、芯が止まると摘心をして仕立て直すこととなります。トンネルを日中掛けたままにしたり、開ける時間が遅れることなどが原因になります。また、晴天時の夕方早い被覆(午後3～4時ころでも危ない)も避けてください。

夜間から明け方にかけては、霜注意報が出て0℃以下に冷え込む日があります。夕方には確実に保温を行いましょう。また生育が遅れていたり不揃いな場合は、かん水は控えめにし、多重被覆で温度の確保に努めます。かん水は暖かい日中に行います。わき芽が多く出てきますので、早めに整理をしましょう。遅れると花茎が弱くなる原因となります。



根腐病により日中の萎れを繰り返し、枯れるので、かん水を控え、強日射、高温を避ける

アブラムシ・アザミウマの防除を行い、ウイルスの感染を防止します。春先でも深刻なウイルスの感染症状が発生しています。雑草はこれらの害虫が潜む場所になるので、きれいに草取りをしましょう。また、葉先が焼けたあとにつきやすい灰色かび病にも注意してください。

ポリマルチがなく、全体に土壤水分が多いと表面にコケも生えやすく、地温も上がりにくくなります。特にゼニゴケは表面をかきとるなどして早めに除きます。

## 【リンドウ】

芽が地上に伸びてくると同時に、雑草も出てきます。雑草が大きくなる前に草取りを行いましょう。雑草にはアブラムシなどの害虫が潜みます。ウイルス病を媒介することもありますので、注意しましょう。

### 1 芽整理

第1回目の芽整理は草丈20cm程度になった頃、生育の遅い茎や細い茎を取り除き、概ね1株当たり12～13本程度までに整理します。2回目の芽整理は30cm程度になった頃行い、1株当たり7～8本程度残



適期に芽整理がされた株元

して芽の整理を行います。1回目の芽整理をしっかり行うことが大きなポイントで、ここで芽の本数が決まると、2回目の芽整理はとても楽になります。

## 2 施肥

芽が伸びてきたら、基肥の残り半分の肥料（窒素）を生育の様子を見ながら与えます。肥料は株元へまくと肥料で芽が焼ける心配があるため、畝の中央部へまくようにしましょう。

## 3 フラワーネット張り

栽培床の上20cmくらいの高さに1段目のネットを張り、生長に従って2段、3段目とネットを張っていきます。2枚、3枚を重ねて張っておき、生育に合わせて上げていきます。

## 4 排水対策

粘土の強い土や排水の悪いほ場では、排水のための溝を設けるなどの対策を実施してください。夏の高温期に水が溜まる状態は根傷みの原因になります。

## 5 新植

4月下旬～5月末が定植時期となります。基肥を施した後、ベッド60～80cm、通路70～80cmとし、平らにならして十分湿った状態で黒マルチを被覆します。株間は15～20cm（早生15cm、中晩生20cm目安）の2条植えとします。セル成型苗は到着後すぐに植えます。ジベレリン処理をした苗は、1年目から伸びてくるため、ネットを1段張ります。

# 【アリウム類・シャクヤク】

## 1 温度管理

日中のハウス内は30℃以上の高温になります。肩や側面を開けて換気をしますが、このとき直接外の冷たい風に当たらないよう、天井カーテンなどで遮ってください。

## 2 土壤水分管理等

商品に必要な草丈と茎の太さの確保には、十分な土壤水分が必要です。

暖かくなるとハウス内は大変乾いてきますので、表面が乾いたら水を与えるようにします。シャクヤクは特に着蕾後20日くらいは適度な水分が必要です。午前中の暖かい時間帯に行い、夜間の冷えと過湿を防ぎます。アリウムではアブラムシやさび病などの病虫害も目立ってきますので注意して、早めの防除に努めましょう。

また、除草など周辺の管理も忘れずに行います。

## 3 シャクヤクの摘蕾

株養成のため、3年目以降の株は全体の茎の4分の1程度の本数の蕾を摘み取ります。株の力を見て調整しますが、細いものばかりを残さず、ある程度の太さを残します。



ギガンチムのウイルス症状。黄色い条斑、生育不良、ねじれ



生育の進む半促成シャクヤク。  
土壤水分が必要